

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	藤本四八写真文化賞事業	会計	一般会計	事業No.	818	施策順No.	27-014
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-5-6-11-12		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	美術博物館		
施策	27 文化芸術の振興	事業期間	開始	9	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	1 飯田市民 2 全国の写真家、写真愛好家						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田市の人口(人)		106630	105691	105691	106000	
	意図	1 日本を代表する写真家である藤本四八氏を顕彰し、市民周知を図る。 2 写真芸術を通じて、飯田市を内外にPRするとともに、写真文化の向上に寄与する。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	飯田での展覧会(隔年開催)の観覧者数(人)		1350		1000	632*		B
	公募(隔年開催)の部応募点数(点)	59		52		*飯田会場のみ	60	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	前回に比べて観覧者数が伸びなかった。また一方では、美術博物館が主管となった第6回以来、賞のあり方を検討し改革を進めてきたが、この事業が東京で授賞式をおこなうなど市民から見えにくいなどの問題点が改めて浮かび上がった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	1 飯田市出身の写真家・藤本四八氏の業績を称えとともに、飯田市さらに日本の写真文化芸術の向上発展に寄与する事業として、平成9年市制60周年記念事業として始まる。 2 賞は2年に1回のサイクルで実施し、第1年目には募集と審査を、第2年度には賞の発表と授賞式、受賞写真の展覧会(飯田・東京)を行う。 3 平成19年度より飯田市美術博物館へ事務移管となり、第6・7回を主管した。第6回より賞の種類を「藤本四八写真文化賞」(推薦の部)、「藤本四八写真賞」(公募の部)、「市民奨励賞」・「小中高校生奨励賞」(公募の部・しんきん賞)とした。 4 小中学生への写真文化の浸透を図るため、平成20年度から「子ども写真教室」を開催している。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 第7回写真文化賞表彰式及び記念パーティー 2 受賞作品展覧会 東京展覧会 3 受賞作品展覧会 飯田展覧会 4 受賞作品展記念講演会 5 子ども写真教室	1 案内者数 2 展覧会日数 3 展覧会日数 4 開催数 5 開催数	1 80名 2 7日 3 14日 4 1回 5 1回
23年度実施計画	1 第8回藤本四八写真文化賞の事業内容企画 2 第8回の募集・広報 3 応募作品数 4 第8回の選考会の実施(24年3月) 5 子ども写真教室	1 受賞者数 2 マスコミ露出回数 3 応募作品数 4 応募者の数 5 開催数	1 8人 2 10回 3 60作品 4 50人 5 1回

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 [22特定財源] (そ) 諸収入 [23特定財源] (そ) 使用料 諸収入
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他	140	200	273		
一般財源		3,025	2,878	770		
計 (A)		3,165	3,078	1,043		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計 (B)			0			
トータルコスト A+B			3,078			

4 事業に対する市民や議会の意見

1	すでに7回の賞を開催しているが、日本の写真界において重要な写真賞として位置づいている。
2	応募する飯田市民の写真家にとっても大きな励みとなっている。
3	昨年10月、施策と事務事業評価を行った飯田市議会から、「藤本四八氏の業績を顕彰するとの初期の目的は達成された。表彰式が東京で行われる等、市民から理解されにくい面も見られるため、行政が関わって今後も実施すべき事業かの検討を早急に進めたい」という提言が寄せられた。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	1 いつでも誰でもどこでも気軽に親しむ・自己表現の機会が得られる 2 文化活動を主体的に担う	施策の成果指標又はムトス指標	文化芸術活動に無縁な生活を送っている人の割合(%) 1 文化創造活動に自ら主体的に関わった人の数(人)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	第7回を重ねたことで、写真文化に対する関心を高めることができた。		
	後期に向けた課題	「誰でもどこでも気軽に楽しむ」「自己表現の機会が得られる」ために、応募数を増やすよう賞のあり方を見直す必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	主管を生涯学習課から美術博物館に移して以来、市民奨励賞・小中高校生奨励賞を新設するなど、賞の見直しに努めてきた。		
	後期に向けた課題	賞のあり方について見直しが必要である。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	第7回から公募の部の「写真文化賞」を「写真賞」とし、賞金を50万円から30万円に変更した。また、市民奨励賞(飯田信金賞)・小中高校生奨励賞(しんきん賞)について、第8回から飯田信用金庫より20万円の助成を頂戴した。また、推薦の部「写真文化賞」の記念品をキヤノンより提供いただいた。		
	後期に向けた課題	賞のあり方を見直す中で、さらなるコスト削減に努める。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	飯田出身の写真家の名前をかぶせた日本的な写真賞であるため、市の関与は適切である。		
	後期に向けた課題	市の関与の適切さを、市民にアピールできるよう賞のあり方を見直す必要がある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してありましたか	4年間の振り返り	主体の一つは写真を愛好する市民・小中高校生で、公募の部に応募した。一方、全国で活躍する写真家にとっても目指す大賞として位置づいている。行政はこの賞を主催し、公平な審査を行っている。		
	後期に向けた課題	写真を愛好し、公募にも参加する市民が増えるよう、行政は公平性を保ちながら働きかける必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	推薦の部「写真文化賞」は7回を重ねて日本写真界を代表する賞となってきた。美博移管とともに、新たな賞を作り、とくに子ども達への働きかけを強めてきた。その一方で、議会からは本来の目的を達成したのではないかという意見が寄せられるなど、賞のあり方が問われている。		
	後期に向けた課題	より市民に密着し、市民益に繋がる賞にする必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ある	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input checked="" type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	---	--